

2022年3月期 通期決算に関する主なご質問

- Q: 2023年3月期通期業績予想における、欧州の建築用ガラス事業および自動車用ガラス事業における需要想定を教えてください。
- A: 欧州の建築用ガラス市場においては、お客様に燃料サーチャージ制とそれに基づく現状の価格は受け入れられており、原燃材料費がこれまでと同様の水準で推移するのであれば、燃料サーチャージ制により価格に反映されても、需要は引き続き堅調に推移すると見えています。自動車用ガラス市場においては、第1四半期に関しては厳しい状況が続きますが、下期以降にかけて徐々に回復していくと想定しています。
- Q: 2023年3月期における自動車用ガラス事業の黒字転換を計画しているが、計画には価格転嫁も織り込んでいるか？
- A: 当社グループが適正と考える価格転嫁については計画に織り込んでいます。
- Q: 自動車用ガラス事業の収益性改善については以前から取り組んでいたと思うが、今後はこれまで以上に強い決意で推進していくという理解で良いか？
- A: 2023年3月期に営業利益を黒字転換するため、強い決意で臨みます。
- Q: 2023年3月期の通期業績予想について、税率の想定が高いように見受けられるがなぜか？
- A: 当社グループには利益を計上している国と計上していない国があり、また、繰延税金資産を計上している国と計上していない国があります。これら利益や繰延税金資産計上の状況に基づき、各国の税率に基づいて国ごとに税金費用を計算し合計するとグループ全体ではこのような税率になります。
- Q: 太陽電池パネル用ガラス増産に対する今後の設備投資の方針について教えてください。
- A: 現状検討中の段階でまだ決定はしていませんが、窯の新設は検討しておりません。既存の窯を活用するなど、費用対効果が最大限となるように対応して行く方針です。
- Q: 最悪の事態を想定したとして、欧州においてロシアからの天然ガスの供給が停止した場合の対応について教えてください。天然ガスはそれ以外のエネルギー源に切り替え可能か？
- A: 現在天然ガスの供給が停止されるような状況は想定しておらず、あくまで仮定の話となります。欧州では、イタリア、ドイツ、ポーランドで利用している天然ガスには一定程度ロシアから供給されるものが含まれています。天然ガスの供給が停止した場合は重油等へ切り替える等、その対応は窯ごとに異なります。重油等でも生産が可能な窯もあれば可能でない窯もあり、今後のリスクに備え必要な投資を含め早急に対応を検討しているところです。